

京交山岳部報

№281

'75-3月号

〔第1072回例会〕

童 髻 山

(R)

日 時 3月5日(金) 8.00 四条烏丸市バスセンター集合
コ ー ス 四条烏丸一大原…音無滝…童髻山…旭滝…堅田一掃洛
担 当 者 五条 坂井久光 (TEL 368) 申込み〆切 4日(木)
備 考 豚汁を作ります。食器持参のこと。費用 500円

〔第1073回例会〕

武奈ヶ岳～釣瓶岳～釈迦岳

(R)

日 時 3月9日(火) 7.50 京都駅2番ホーム集合
コ ー ス 京都一湖西線比良駅一比良ロッヂ…武奈ヶ岳…釣瓶岳…望武小屋…
比良ロッヂ…釈迦岳…イン谷一比良駅 1/25,000図「北小松」
担 当 者 横大路 大西純一 (TEL 601-9391) 申込み〆切 6日(土)
携 行 品 わかん、手袋、スパッツ、ヤッケ、オーバースボン、弁当、他

〔第1074回例会〕

能 郷 白 山

(T)

日 時 3月26日(金)～27日(土) 9.00 横大路車庫集合
コ ー ス 京都東一大垣一根本尾川一能郷谷(幕営)…能郷白山△1617m
担 当 者 横大路 牧野 健 (TEL 601-9391) 申込み〆切 22日(月)
装 備 (共同) テント、ホエーブス、炊事用具、食糧(4食分)
(個人) シュラフ、アイゼン、わかん、ビッケル、スパッツ、手袋、
ヤッケ、オーバースボン、懐中電灯、地図、磁石、他

リーダー会

3月6日(土) 徳野宅

昭和50年度

山岳部総会

- 日 時 3月18日(木) 午後6時30分から 鳴滝寮にて
- 会 費 ￥500.- (夕食を準備します)
- 議 題
1. 50年度会計報告
 2. 50年山岳活動表彰
 3. 51年度役員および支部委員の選出
 4. 51年度予算について
 5. 51年度年間スケジュールについて
 6. 牧 定夫・田中定勝両名誉部員還暦お祝い登山について
 7. その他(例会報告、4月例会、集会等について)

申 込 み 別紙出欠席票を3月15日(月)までに本局・木下(機械計算室)まで送付ください。(例年出席者の把握に苦勞しますので協力をお願いします)



新と旧と

宮 後 正 樹

久しぶりの比良合宿である。昭和38年以来の比良冬山合宿だから13年ぶりである。それも今回は平均年齢20何歳という若手部員によって初めて企画実施された比良合宿であった点でユニークであり何としても皆人などともに雪中生活をやりたいと急拠参加したのである。

以前は38年、39年と2年連続2月の初旬にそれも一週間の合宿をやっている。従って参加人員も延40人~60人という動員数でメンバーも多彩、賑やかなものだった。その点今回は合宿とは打ち出したものの1泊2日の日程で参加者も途中から飛入りの小生を含めて6人という淋しさ、むしろ冬山訓練か雪中幕営といった例会である。少なくとも登山形態からする合宿という以上はやはり5日とか一週間以上とかの日数をかけて冬山なら冬山のあらゆる技術について訓練をやることに合宿の真価・良さがあるのである。

以前の合宿はいずれも8日間の幕営で人の出入も多くそれだけにまとまった訓練はできなかったがそれでも個々のグループに別れて腰まで没するラッセルと雪中幕営を中心に特に雪中の生活技術の向上は大いにははかられ基礎づくりに役立ったと思う。またスキーやワカン、ビッケルワークなどの練習もその合宿日記の中にあらわれている。ベースは望武小屋の下とスゲ原に設営しワカンをつ

けてのラッセルや天幕の除雪のほか武奈ヶ岳へもシールをつけてスキー登山をやっている。ところが今回は例会予告の装備の中にはちゃんと忘れずにワカン、シールも冬山用具の一つとして書いてはあったが一行の中には殆んど持参している者がなかったのは残念だった。豪雪の後方らともかく今やどこへ行ってもラッセルのないところはないくらい人が歩くようになった比良のメインルートではなるほどワカンもシールも要らないかも知れないが少なくとも冬山合宿という以上は新雪の中を選んでワカンをつけシールをつけて歩いてみることも必要ではなかったか。しかし武奈ヶ岳直下におけるアイゼンをつけてのピッケルストップの訓練は極めて積極的に真けんにかも愉しみながら大いに成果があり良かったと思う。

また装備の発達には目を見張るものがある。天幕にしてもシュラフザックにしても防寒衣にしてもすべて軽量で良質のものがどんどん出来て重量は以前とは比べものにならないほど楽になっている。そのせいばかりではないが今回はツボ足方ながらも正面谷から金蔵峠を直登し八雲ヶ原へと登山し、さらに下りもロープウエーを横目に北比良峠のカレを通過してカモシカ台から大山口へと旧道を下山し往復ともポッカをやった点は見上げたものであった。

そのほか食糧計画にしても若い連中ばかりの献立とあって夕食はジンギスカン、朝食はスパゲッティとヤキメシ、ラーメンに比べて今昔の感あり、さらにスキー技術においてもこれまた荷物がなかったこともあるが若い連中はハイバックのスキー靴でウエーデルンよろしくぶっ飛して行くのに対しこちらは160cmのショートでボーゲン、キックターンと安全スキーに徹し新旧技術の差をつけられた。しかし新雪の中でのストックターンには「何となくまわゆるものやね」と変なところで感心され「荷物があればこれでないダメだ」といいながらのオールドファッションスキー、シェーレントーンとパラレルやクリスチャニヤほどではないが新と旧のデモンストレーションであった。

かくして晴天に恵まれた今回の比良合宿(?)は一まず一応の成果をあげこれからの冬山合宿の方向づけを得た例会であった。

新旧比良合宿をふり返ってそれぞれに学ぶところがあり今後とも新と旧と、ともに大切にしながら良い点を取り入れ活かしながら更に前進をはかりたいものである。

ホノケ山

伊藤潤治

ホノケ山とは変わった山名であると思う。全山が穂に包まれる芒か茅の生い茂った山肌だろうか。しかし、地形図・今庄図幅には私が想像するような記号は示されておらない。

広辞苑によってみると、一ほのけー「火の気」ひのけ。一説にけむり。神楽歌・湯立歌「あまのとねらが焚くー」神楽は神に捧げる舞楽であり、湯立も神前で湯を沸かし、巫女がその熱湯に雫

の葉を浸して自分の身にふりかけたり参詣人にふりかけたりする禊の一種であるという。

ホノケとは敬肅とか奉祝というような目出度い意味が含まれているに違いないと考えた。そんな志の故で実は、祝の気(ホノケ)と被せて私は親友山下君の健康回復と新車購入の慶祝山行にこのホノケ山を訪れたのであった。

登ろうと予定したルートは河野村大字菅谷から頂上を目差して一気に尾根を東北登行、と菅谷峠にひかれている地形図の小道の二本であった。現地におもむいたところ、ありがたいのは現地の親友である既に、教賀山の会の寺沢護君は先着の上、菅谷において充分な聞きこみをし、私達の喜ぶルートを調べて待っていてくれたのである。

寺沢君の選んでくれたのは、やはり菅谷峠道であった。菅谷の古老の話ではホノケに登る道は二本あるけれどとりわけ菅谷峠の道は繁っているだろうから、うまく登れるとよいが!と心配してくれたそうである。菅谷峠めざしたところ先づ左岸を良く調べればよいものを右岸がひらけていたので、まんまと釣られた。次に休耕地の植林地帯に入って道があまり上向くので間違っはならじと右の岐れに従えば、菅谷峠よりの流れを直角に踏み越え、そのまま北向斜面の伐採地へ導びいたが、あっさりもう行詰ったのである。常なら菅谷峠を固執したいところだがきょうは山下君の為に「はれ」の山行であって、たとえ間違っいても縁起でもない後戻りは絶対に許されないのである。だが幸いにもすぐ右手は頂稜から北西へ張出す尾根が木立を疎らに透かし延びてきていた。けれど尾根に取付くと、灌木などの仁王立ち踏跡のあるような、ないような右往左往の登行ばかりがつづき見えた目はちょっと違った。頂稜に至ると菅谷峠から来たらしい小道に会えた。しかし、また直ぐ繁みに紛れたのか三角点への道形は定かなくなってしまった。頂上での眺望は金草岳と日野山が大きい。下山には、前述の小道を菅谷峠を経て炭塚まで踏跡が迎れた。ここでもまた道は、その炭塚から途絶えていた。

この日の私たちは大変たのしかったが私たちの行動は山に縁のある人達のみからでも、多分がきかみかみに映るのではないだろうか。ホノケの登頂は以上の如くすんだが一番興味の深かった山名の出所や由来が残った。ホノケの意味は、山麓の里である菅谷の古老でもご存知なかったようだが、もしやと考えて河野村役場へホノケのお尋ねを出す。もらった返信には、ホノケの他にアマゴセ・矢良渠・オマツダラや、糠の浦とか、また隣村ながら米の浦・干飯崎(カレイザキ)などの珍しい山名、地名に囲まれていても、その命名の由来はまだ一つとして明かでないため、何とか知りたいと思っている。とあり、私の出したお尋ねの結果はどうもいけないことをした時の後味であった。近頃さかんになっている地名学の人言葉に地名は祖先がわれわれに残した貴重な文化遺産である。というようにホノケの山名もたしか郷土の文化遺産なのである。けれど文化遺産というても、命名した人の意志や時代も分らぬでは、その価値はきわめて低い情ないものであって心細くて文化遺産とほこってははいられまい。果してホノケの山名にどんな思想がこめられているのやら、また文化遺産とほこれるために、甚だおぼつかないことながらかかわり合った手前知らぬ顔もできなからうからホノケに秘められたなぞへこんなに骨を折ってみる気になったのである。河野村役場にたづねたのだから当然のことながら、ホノケ山に関係のあるもう一方の南条町役場に

も問合せねばならぬことになる。ところでこれはもっと始めの頃掲げるべき資料であったかも知れないが、ホノケ山の基準点名は戸谷。その戸谷の点の記から山名に関係ある条。地名、地種、通称所有主の明細によれば、福井県南条郡河野村大字菅谷字八十九字俗称二ノ清水 保安林一番菅谷区有地管理者村長刀称弥平。同県同郡南柚山村大字奥野々字戸谷俗称ダイカベケ岳 保安林一番南柚山村齋波、上別所、奥野々三区有地管理者村長丸岡源吾。また戸谷の選定年月日及び選定者は明治36年5月4日、宮崎和作等である。掲出はおくれたが、さきの河野村役場への問合せへ、いまここに引用した内の、菅谷字八十九字俗称二ノ清水、を問題ありと考え特に解釈を求めたのであった。

そして南条町役場へも点の記から戸谷と俗称ダイカベケ岳の章をあげてその所在やホノケ山の山名の由来を問うたのである。すると「奥野々」でいわれているホノケ岳についての云い伝えは次の通りです。としてホノケとは河野村の漁師がつけたもので船が方角を失ってどうにもならぬ時、この山のとっぺんに「火の光」が見えたともまた「穂の毛」が見えたともいっていますが、どうも確証はつかめません。しかし奥野々から河野村へは昔から交通があったのでこういう説もまんざら出鱈目とは申せません。

奥野々字戸谷俗称ダイカベケ岳というのはホノケ岳ではなくてその対向にある隣村湯尾村（現今庄町）に属する山で、奥野々では湯尾のカベ山といっているそうです。非常に険阻な涯のある山で涯のけわしいのを称して大カベ山というのかもわかりません。以下略。というような（原文のまま）ご教示を南条町教育委員会野村新氏よりいただきました。

さてダイカベケ岳がうまい具合に湯尾のカベ山へとホノケ山から離されたのでその所在を明確にしておくべく今庄五万図幅をのぞくと、それはホノケ山から尾根つづきで東南へ約一キロの位置にコンター720メートルが数えられる峰のようである。そこで南条町資料をもとに河野村へは漁師による命名説を伝達。新たに今庄町役場へ、ホノケの山名由来をたづね、湯尾のカベ山についての確認を求めた。それに対して今庄町役場は本町にはダイカベケ岳といわれるようなところはありません。ホノケ山という山名の由来ですが、由来は何で調べてもございません。このホノケ山という山名はアイヌの言語であるという事を一寸きいたことがあります。以上、まったく何事もお教えできず残念です。という意外な返事をもたらしたのであった。こうなったら奥野々や湯尾に向向いていろいろと話を聞き廻ることである。大体家に座っていてもお取材をしようとした魂胆が間違っているのだ。そうと判ったら早速取材に飛び出して行くものだがこの取材は現地に近い教賀の寺沢君にお引受けねがうことにした。私はかって金草岳の山名についてあれこれ調べたことがある。あの時は「高倉より美濃道あり、美濃国金草ケ岳の西麓、日窪峠を越える間道なり。」とある。越前名跡考の金草ケ岳の山名は何かの誤ちによつたとしたし、金草岳とは宮崎和作測量官の命名ではないか等、思いめぐらしたものであった。ところがここにホノケ山の山名の方ぞに出鱈目した。するとこれも矢張り宮崎氏の手掛けた山であったのはうれしかった。ついでなので金草岳の点の記を取寄せてみると、点の名称塚奥山、地名 岐阜県揖斐郡徳山村大字塚字塚奥山 俗称カナクソケ岳保安林五百五十五番ノ一番 とあり。はからずも越前名跡考の著述の正しさが立証されたことは何よりの収穫であった。しかしこの宮崎手法はホノケ山の場合「字戸谷俗称ダイカベケ岳」の内、戸谷（

とや)を点名としてあげながら肝心と思える俗称ダイカベケ岳が手づかずであるのは何れ仔細のあったことと思うが、当時既に呼ばれていたホノケの山名を稀なる名前と知りこれを大切に保存したいという宮崎氏の配慮によったホノケの山名ではあるまいか。登頂はすんだがなかなか登ってしもたと片づいてしまわぬホノケ山のようなこんなに思い詰めさず山が私は好きだ。

12月15日 敦賀の同行者から便りがとどいた。ホノケ山の東麓、湯尾の郵便局の局長さんは福井山岳会のベテランであった人、その人の話をきいたのでと、ホノケ山は白山火山系に属し、何かその跡らしきもののあるのをご存知とか、ホノケ山の名は炭山の転訛であるという昔からのいひ伝えなど。そして近々現地におもむいて古老を片ばしからたづね、大いなる耳学問の由。いまや寺沢君におかれてもホノケの解明のため躍起になってくれているのである。1976年2月7日

参加者 山下周道、小川香司、寺沢護 昭和50年10月26日 地形図 今庄

実は昨年おそくも11月中にまとめられると思ってベンをとったのですが、意外に手間どった上に枚数もかさみましたので、当初の予定を半分に変更します。できたらボンデンについても報告めいたものを記してみたいと思っています。できたらよろしくおねがいいたします。

龍門岳・龍門山・飯盛山

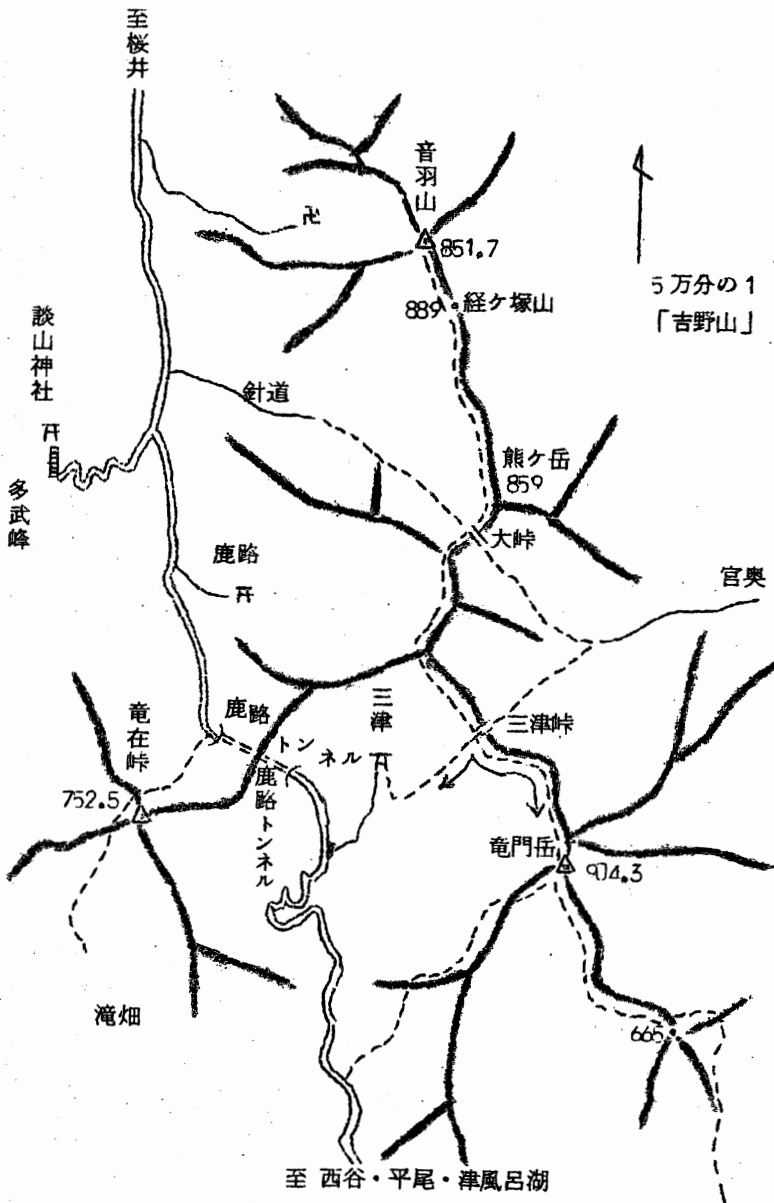
宮 後 正 樹

丙辰歳今年の十二支会例会は紀伊の国粉河の龍門山で行われるので前座の山はやはり辰歳に因んでと大和の龍門岳(12年前の十二支会一周目に選ばれた山)と決める。幸い本年めでたく還暦を迎えられる先輩名誉部員の田中定勝氏と今年から初参加の武田君の同行を得てマイカーで出発する。

途中藤原濂足公を祀る多武峰、談山神社に立寄り朱塗り舞台造りの美しい拜殿から今年の山行の幸と多武峰ゆかりの故多人代氏(同じく先輩名誉部員)のご冥福をお祈りする。東西に折曲った透廊に囲まれた本殿は特異な形態を持つけんらん華麗な社殿として県の文化財に指定されている。また隣門の西の広場には談山の代表的存在とまで賞せられる高さ17メートルの十三重塔婆が権衡の妙をきわめた優雅な姿で聳えていた。

談山神社を後に標高600メートル鹿路トンネルをくぐるると急に積雪となり500メートル余り下ったところで左の林道をつめる。急な上りを登り切ると山ふところに抱かれたような三津の部落に出る。最奥の八王寺神社に詣で車を置いて龍門岳を目指す。

林道はなおも延びているが悪い。案の定地元若衆運転の車が雪の凹みにはまり込んでエンスト。一人で途方に暮れているところを4人でかかえてようやく脱出する。良く踏まれた静かな道が美しい杉の植林の中を這うように登っている。「護ろう緑の楽しいコース」吉野村の多武峰←龍門岳の指導標が自然保護をうたえていた。まもなく前方が展げて頂上のこんもりとした杉林とお社が



望める。新雪を踏みしめて、904.3メートル龍門岳を極める。無惨に角が欠け落ちた大きな一等三角点が頭だけをもたげていた。

田中氏の選賢と登頂を祝して萬歳三唱、金剛葛城、二上山の山なみ、先日神野山から眺めた貝ヶ平、額井山を今日は反対側から望む。さらに少し下った林間からは高見山の尖峰と国見山への台高山脈と白尾岳、四寸岩山などズラリ白い山々が連なっていた。

いらくさ会の三津峠指導標を送って八王寺神

社に戻り遅い温かい昼食をとる。津風呂湖に影を落とす龍門岳を仰いで吉野川、紀ノ川へと西走する。

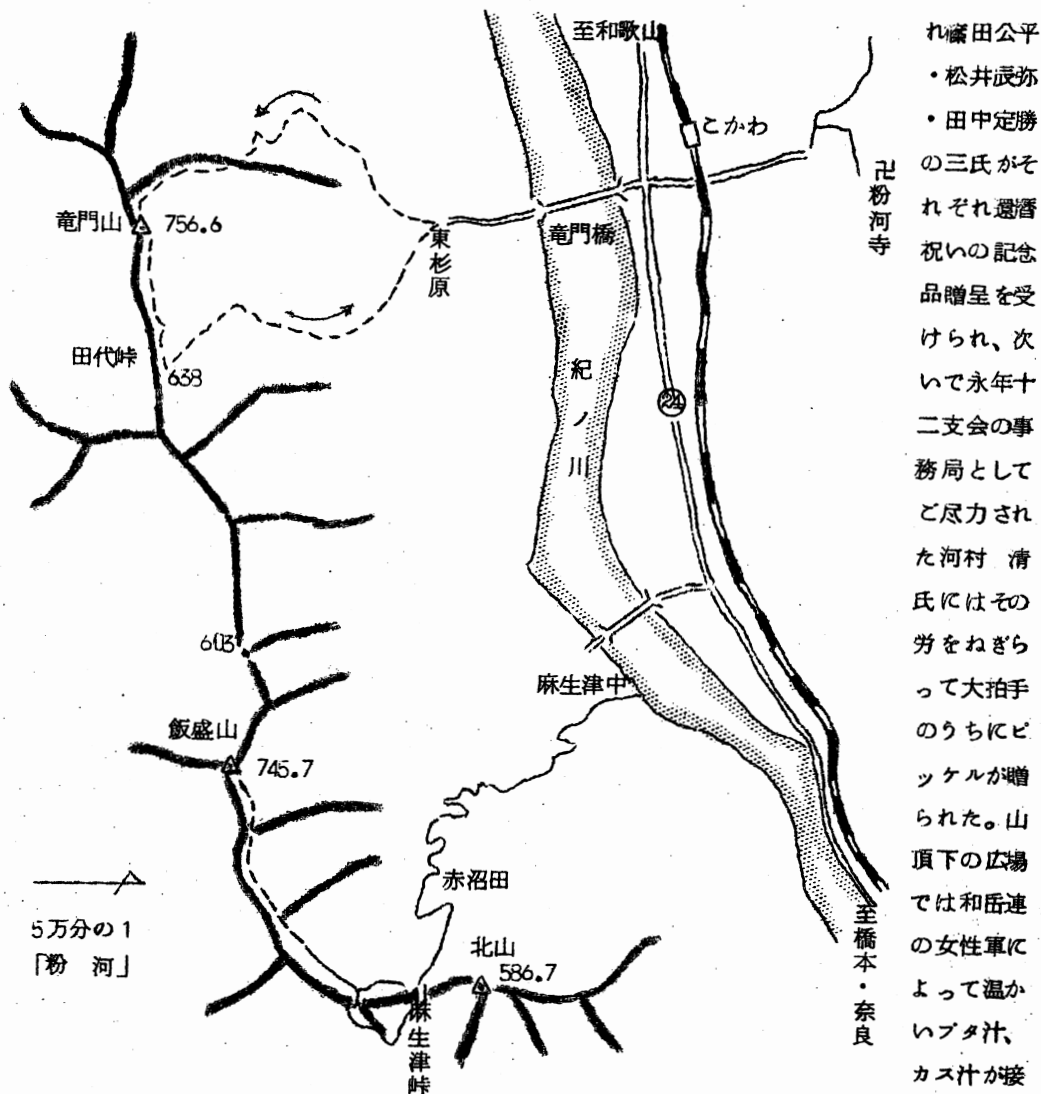
十二支会前夜祭は和歌山市の西端雑賀崎の太公望本館で行われ、今西錦司先生の「十二支会は年々盛会でまさに大器晩成型である。皆さんのますますの晩成をお祝いしてカンバイ」のご挨拶のあと、和歌山県山岳連盟の熊本理事長はじめ理事の方々のお世話で豪勢が大漁鍋を囲みだんらんする。

紀伊国龍門山は標高わずか756.6メートルだが脚下に紀ノ川を望み「その形、富嶽に似たり」と紀伊の国名所図絵にもあり紀州富士とも呼ばれている。大垣山島さん一行とともにマイカー組は

先ず西國三十三カ所第三番の札所、利粉河寺に参りその名も龍門橋という大橋で紀ノ川を渡り観光バスの一行を待って東杉原の部落に集結する。ところがここで今西先生達のマイカー組の車も姿も見えずしばらく待ったが連絡のつかぬまま登山開始となる。

登山といっても最初はみかん畑の中を縫う急な車道である。標高300メートル辺りか車道が尽きる所に正しく先生らの車二台が止っておりお先に失礼とばかり既にもう登っておられるのには一同参った。中央ルートを辿って途中明神岩や風穴を見学し2時間余りで後線に達す。「祝辰歳一九七六 十二支会」の尾っぽをつけたグイラーカイトがビュンビュンと威勢のよい風音をたてて我々を歓迎してくれた。和歌山岳連のグッドアイデアに感服した一場面であった。

三等三角点を囲んでのセレモニーは昨夜の前夜祭で新たに選ばれた山口政一会長（今西先生、大西保夫、伊藤潤治のお三方には顧問をお願いすることとなった。）の発声で萬歳が高らかに三唱さ



待され罐ビールが配られて大昼食会である。1時間余の山頂を満喫して下山となる。東へ後線を辿り途中県の天然記念物に指定の礫石岩ではコンパスの針をうばわれ田代峠で一伏してのんびりと田代コースを下る。東杉原に戻り和岳連の一行に見送られ互いにお礼を交しながら来年の大蛇ヶ峰を約して散会した。

帰途、今西先生も前日に登られた東隣の飯盛山を登って帰ろうと麻生津中からまたまたみかん畑の車道を走ったが山よりも苦しい車での急登に次ぐ急登とヘアーピンカーブにかろうじて麻生津峠に到達する。流石にこれから上の急坂はもう元気なく南へ大きく廻り込んで別荘地から展望台のある後線まで車で登った。

目指す飯盛山はまさに御飯を盛ったような美しい姿で我々を招いてくれた。小さなコブを二つ三つ巡って名手駅からのコースを示す県庁山岳部、雑草杉の木会などの指導標の立つ鞍部から最後の快適な急登で△745.7メートル二等三角点に達す。頭部の二等の文字が破損していたが灌木に囲まれた丸い山頂で三つ目の萬歳を三唱した。

子(ね)	前歯なし	午(うま)	キモが小さい。ビックリ性
丑(うし)	上歯なし	未(ひつじ)	はい目でないと見え辛い
寅(とら)	神経筋なし	申(さる)	胃袋が小さく口にふくむ
卯(う)	前足短かし	酉(とり)	鳥の一穴 肛門オンリー
辰(たつ)	つんぼ、目を利かす	戌(いぬ)	胃が弱く運動させるべし
巳(み)	足なし	亥(い)	首が廻らぬ

といった具合で、干支の動物たちはそれぞれ他の動物に比べて片わものばかりである。さらに十二支の動物の名を冠した山を探しては登り続けている我々もどうやら一種の片わものではなからうか。

[コース・タイム]

1月17日(土)		1月18日(日)	
7.45	京都発	9.20	粉川登山口
8.30	城陽市	11.00	中央口
10.00~10.40	談山神社	11.30	明神岩、風穴
11.15	三津、八王寺神社	11.50~13.00	龍門山
12.20~12.55	龍門岳	13.30	田代峠
13.20	三津峠	14.50	登山口
13.35~14.30	八王寺神社		
18.10	雑賀崎、太公望	同行	近藤 薫、田中定勝
			河村 清、坂井久光
同行	田中定勝、武田喜久郎		武田喜久郎
			十二支会一行

龍門山と社寺巡り

1月27日 天候 晴時々雪

畑 照 人

今年の千支である辰歳の山として南紀の龍門山が十二支会の例会として選出されました。毎年会の皆様と共に参加していましたが今年は都合が悪かったので私1人で登ってきました。7.25発の王寺行きに乗り途中長田駅で下車。すぐ前の長田観音さんへ参詣して納経印を頼むと奥からわざわざ座ぶとんと火鉢を持ってこれれ次の列車くるまでゆっくり休んで行きなさいという言葉にますます感激するも当方にも都合があり印をもらうとすぐに出発して粉河寺まで歩きました。境内の土産物店でみかん一袋買い龍門山を尋ねると今年は辰年の為か登る人がいつもより多いですとのこと。又粉河駅からバスが龍門まで行く回数が少ないので時刻表を見て利用されるとよいです。然し龍門橋を渡るだけですので私はとにかく歩くことにする。紀ノ川の長い長い橋を渡り十二支会の人のはどの道を通ったと考えながら一直線に進路をとりました。

荒見郵便局前で老人に道をききました。正面の平らな山が龍門山でその左手に恰好のよい山があるがそれは違いとのこと。やっぱり尋ねてよかった。私はその姿の良い山が目差す龍門とばかり思い、とにかくそれを目差して登ればよいと独り合点していたのです。もう少しで大失敗する所でした。聞いた道を上るのですがキツイキツイ登り坂です。みかん畑の中の道なので地図上のどの道を通って行くのか分かりません。とにもかくにも最短の一直線に上るとうまい具合に中央登山コースの導標のある道へ飛び出してヤレヤレです。そこで小休止。それから導標に従って登りました。田代コースと中央コースとの分岐点でカメラで一枚中央コースを登ることに決定。樹林帯には木の名前を書いた板がつけてあります。県の教育委員会がつけたものと思われます。(キイ、シモツケグサ天然記念物)途中で明神岩という一枚岩風穴を見物する。11時45分頂上下の広場へ出ました。こゝは昼食の指定場所のようで、弁当の残がいがたくさんありました。きっと前の人々もこゝで休んだことと思います。私もこゝでお昼にしました。三角点はもうそこです。12時丁度到着。私1人の三角点祭りで万才三唱しました。こんな大きな山、私1人では惜しいですね。天気はまずまずでした。十二支会標識にサインしておきましたからよろしく願います。下りは田代コース、遊石岩(県天然記念物)を観賞して田代峠で一服しました。先の分岐点から往路を下り荒見郵便局でスタンプ押してもらい粉河駅へ着いたのが14時05分でした。売店でビールを買い飲んだ時のおいしかったこと。次の自動車が高野口駅へ行き慈尊院別名女人高野へ参りました。「弘法大師が高野山開創の時山上への基地として使われ、後大師の母が住み、古の高野登山のかゝりの寺となった所で子授、安産そして授乳と女人高野で知られる」とあり、重文指定の建造物もある古い寺です。納経印をもらいました。境内の上の方に丹生神社の長い石段がありましたのでそこへも参拝しまし

た。今本殿（重要文化財）は修理中です。社務所の話ではこゝら辺はテレビ「紀の川」の舞台となった所でこの神社はかむろ山（100 m）にあるそうです。帰りはまた長い紀の川の橋を渡り伏原町へ出て、伏原寺を尋ねましたが、町内に3ヶ寺もあり遂に目的の寺が判らないまゝ学千路の南海駅から急行でかんばへ帰りました。

印象記 紀の川の長い橋を三つも渡ったこと、九度山町から高野口町は材木屋の多いこと、弘法大師と高野山ゆかりの寺が多いことでした。

【コース・タイム】 和歌山駅7.25－8.05長田駅（長田観音）8.15－粉河寺着9.05－粉河寺駅発9.30…竜門山頂上着12.00…田代峠着12.35粉河駅着14.05－高野口駅着15.25
－学文路駅発18.11－かんば着19.24－京阪三条駅20.31

四国の一等三角点

大山 691

五条翠峰

1月24日 四国の登り残した一等三角点を尋ねた。フェリーに乗って徳島に行き、先づ眉山△280mへ登った。山麓からケーブルが通じているが、手入の為運休で石段を登った。途中車道と交差する地点に「山頂徳田彦神社迄1,500mを20分迄に登れた人は20才台の若さ」と書いてあったので、ものは試しと、10K 余りの荷のキスを背負って急坂をどんどん登った。山頂の小祀を通り、頂上の三角点に着いたのはそれから18分後であった。暮れゆく徳島の市街を見下ろし、往路の暗い樹林の急坂を10万ドル位の夜景を眺めながら下山し、麓の近くの旅館で一泊した。

翌25日駅前から松治屋原行のバスに乗り神宅で下車。山麓の果樹園を通して北へ大山畑へ通ずる車道を辿った。宮ヶ谷の清流に沿って行くと後からダンプが来て大山畑部落の手前迄乗せてくれた。牛を飼っている農家が数軒あり、左へ行くと立派な大山寺（タイサンジ）の山門がある。石段を登って大山寺の庫裡へ行き、案内を乞うた。日曜だが誰も訪れる人も無いのか門が閉じられていたが、和尚が出て来て門を開けて招き入れてくれた。立派な座敷に通され茶菓を供される仕末で、恐縮した。大山寺の縁起を聞くと、仏王山玉林院と号し、約1500年前の弘仁年間弘法大師が来山して、本寺を中心に四国八十八ヶ所や、十霊場を定め頓座した当寺を復興された。後に火災にあったが、藩主蜂須賀公の祈願所だったので直に再建して今日に至っている。往昔、義経が屋島の合戦に際して当山に來り、旧師鞍馬山の僧正坊と当寺の太郎坊と親交方なので、その縁で当地で策を立て勝利を得た後、礼として愛馬薄雪を献じたとか。義経桜や愛馬の墓がある。厚く礼を述べ、頂上へ続く林道を登って電力会社のパラボラステナの立つ頂上へ、三角点は道傍にあり南方が開けて、剣山始め四国山脈や、高越山・眉山等の一等三角点が挿挿、眼下には吉野川の清流や徳島平野が一望出来た。山頂附近の林間の日陰に残雪があり高度感を深くした。又大山寺に戻って昼食をカップラーメンで済まし、往路を途中迄下山すると右手に旧道が分れている。老松の並ぶ旧道をどんどん

下ると車道と再び合し南へ向って下った。梅や水仙の花が誇り、えんどうや蚕豆が青々としているのが眺められ、ふと早春になったような気がする。再び神宅バス停に行き、バスで徳島に戻ってフェリーボートで深日港経由南海電車で帰った。

比良 冬山合宿

横大路 山田 精 一

僕は冬山は初めてと多少の不安があったが、岡本リーダーの適切な指導によって、楽しい冬山になった。イン谷口バス停で下車し、正面谷を登ることにしたが、全員がまだ朝めしをたべていないので、バス停前の食堂で腹ごしらえをした。店のおばちゃんに金蔵峠までの雪の状態を聞いてみると、「今日は天気もいいし、ラッセルをしなくても楽に登れる」とのことと、徳田君のワカンが不要となり、ラッセルしないですむのが何か悪い様な気がした。ガレ場までは、だらだらした登りでスキーを持って来た岡本君、徳田君、西井君らは途中ブッシュや木の枝に引っ掛けて苦労していた。

ガレ場からは急に谷がせまくなり、登りつめると金蔵峠である。峠から見る冬のびわ湖は、寒さが身にしみると同時にさわやかであった。峠から八雲ヶ原のベースキャンプ設営地まで、奥ノ深谷沿いに約40分の道のりである。八雲ヶ原のキャンプ地は北比良スキー場の横にありスキーヤーが見える。さっそくテントの設営にかゝる。冬テンのまるい屋根、さすがでかいだけあって出入が楽で、持って来てよかったと思う。

宮後さんがP.M 6.00にスキーをつけて到着。さっそくめしの用意をする。宮後さんから酒の差し入れがあり、岡本君、徳田君が特に声を上げて喜ぶ。いろいろ話をしてP.M 10.00に寝た。朝8.00に起きて、常食となっているスパゲティを食べ出発。今日も天気がよく、ついている。グレンデを横切り、望武小屋に着くと高校生らしいパーティがいる。そこで少し止む。小屋からは武奈ヶ岳が見える。日曜日ゆえに人が多い、中には子供連れで登って来る人もいる。武奈ヶ岳では2パーティ約30人くらいの人が、大声を出し、擬負傷者をスノーボードに乗せ、雪上訓練をやっていた。我が京交山岳部も負けじとバンザイをし、横の斜面でピッケルワークを主とした雪上訓練を、岡本君の指導によって行なった。僕と西井君、木村君は初めてと、うまくいかない。本番ならとくに遭難であるところだが、訓練でよかったと思う。

休憩の間合に、遠く白山、大日岳、能郷白山等を望む。すばらしい展望の武奈ヶ岳頂上であった。下りはスキーを持って来た宮後さん、岡本君、西井君らとテント地まで別々に下る。八雲ヶ原から北良峠…カモシカ台…ウエ谷…正面谷…イン谷口と、全行程天気がよく、楽しい冬山合宿であった。
1/31~2/1

【参加者】 岡本義弘、徳田真三、山田精一、西井 巖、木村彰光 (後発) 宮後正樹

リトル比良

2月9日 田中忠久

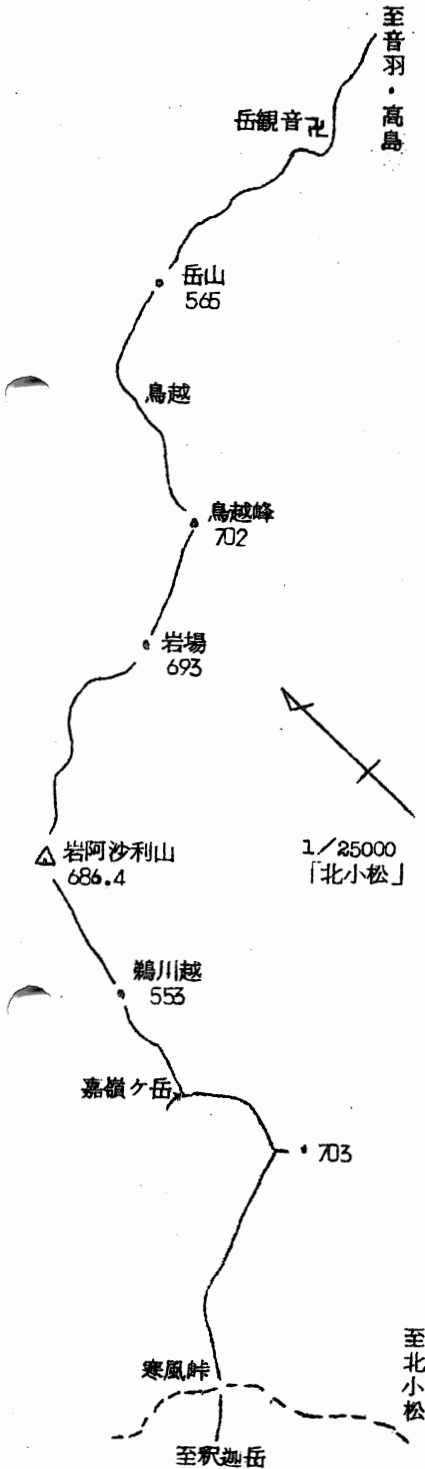
湖西線高島駅で下車。音羽の部落から岳観音参道に登る。途中、展望のよい岩場などもあって楽しい道だ。雪の積った境内に建つ観音堂は、なにかわびしかった。観音堂の裏手から尾根道まで少々の藪こぎ。尾根に出て、展望のよい岩場で休憩する。山下さんにいたゞいた熱つゝい甘酒がうまかった。

岳山(565)、鳥越と標識に従って登って行ったが、だんだんと雪が深くなり、鳥越峰(702)の手前でわかんを付ける。「1日歩いてもだいじょうぶ」というチロルで習ったわかんの付け方を披露して、以後全員がきわめて快調に歩けた。

鳥越峰(702)を巻いたところで昼食にする。こゝでは上島さんから熱つゝい紅茶をいたゞき、U・S・Aテルモスの威力を再認識させられた。昼食の後、しばらく岩場が続いたが、こまめに付けられたテープがあり、随分に助かった。

雪の急斜面をラッセルして岩阿沙利山(△686.4)に登る。三角点標石は雪の下で、さがしよりもなかったが、いくつかの巨岩が点在して、リトル比良の核心部を思わせた。釈迦岳、武奈ヶ岳、釣瓶岳の展望台である。雪の付いた武奈ヶ岳はなかなかすばらしい。右手には蛇谷ヶ峰も眺められた。「リトル比良登山パンザイ」を三唱してけじめをつけたが、前途はまだまだ遠く、気を引き締め直して出発する。

鶺鴒川越(553)を過ぎ、嘉嶺ヶ岳(650)に達して、やっと先が見えてきた。寒風峠の北東尾根である。「最後のラッセル」とP703に取り付き、さらにコブを2つほど越して、寒風峠に下った。午後



4時であった。歩き出して9時間、わかんを付けて5時間半、よくがんばったと思うし、また楽しくもあった。

峠でわかんを外す。あとは、ラッセルされた道を、涼峠、湯梅ノ滝、北小松駅へとハイビッチで下って行った。

【参加者】 上島和彦、山下栄次、進藤義治、田中忠久

【コース・タイム】 京都 6.06—高島 7.07…音羽登山口 7.25～7.35…岳観音 8.20～8.30…展望のよい岩場 9.00～9.10…岳山 9.35…鳥越 10.00…わかんを付ける 10.20…鳥越峠をまく 10.50…昼食 11.00～11.30…岩場 11.50…岩阿沙利山 12.55～13.20…湯川越 13.45…嘉瀬ヶ岳 14.20～14.40…P703 15.05…やぐらのあるP 15.35…寒風峠 16.00～16.20…涼峠 16.55…北小松 17.40～18.15—京都 19.15

昭和51年初春の山行

愛宕山

1月15日 晴

畑 照 人

初山に愛宕山に登る。昨年暮に2人の孫が生まれたので火除けのお守りを頂いてやろうと思ったからです。釈迦堂前から京都バスに乗りましたが車中は山行きの人で満員の状態でした。4.5才位の児童が1人前の山屋の服装していたのが可愛らしい。雪は例年より少く水尾村への岐れ道から上で10cm程度でした。帰りは月輪寺から空也滝を見て拜んで清滝からバスで家へ着きました。

尚末筆ながら部員の諸兄、本年もよろしく頼みます。歩くことに無上の楽しみを感じる此の頃です。

大文字山

1月19日 晴

愛宕山と大文字山とはどうやら私の散歩道として定着しそうです。今日はいつもの反対コースで上りました。三角点で引返す予定でしたがもう少し歩きたくて池の谷地藏さんまでお参りしました。低くともやっぱり山です強風が吹いていました。

愛宕山

1月22日

またアタゴサンかと云わないでね。朝9時頃から行くとするとうりでも二つですね。山岳部でいつか梨木谷から登ったことを思い出して今日行きました。首無地藏さんから竜と地藏山の登山口を確認して神社参拝、本道から清滝へ出ました。とても冷たい風が吹き寒い日でした。日本海側大

雪降っているのに太平洋側カラカラ異常乾燥という冬型の天気でした。

清滝 10.00 一空也滝入口 10.20 一梨木谷口 11.00 一首無地蔵 11.50 一碎石場 12.30 一地藏山登り口 12.50 一神社 13.30 一清滝 15.00

愛宕山 一 水 尾

1月29日 曇

清滝から月輪寺参詣して芦火谷源流入口まで行き雪少ければ「竜」をと思ったが此の前の雪降りの為積雪多く断念する。神社参拝して清滝まで急ぐが一度水尾へ下って見ようと思い、みかん売店の村の人にきくと約30分で水尾へ下れるとの事なので行くことにする。ほんとうに快適な良い道である。間違いなく30分で下る。清和天皇社へ参り一路保津峡駅目指し歩く。下を見ると川沿いでハイキングによい道がついている。今度はあの道を歩いて見ようと思い乍ら遂に駅まで来た。天気は曇り勝ちであったがどうにか雨にもあわず少し暖かい陽気でまづまづの日和であった。

清滝 9.50 一月輪寺 11.25 一芦火谷入口 12.25 一神社着 12.55 発 13.15 一水尾道入口 13.30 一水尾町着 14.00 一保津峡駅着 15.10 駅一駅発 15.52 一京都駅 16.15

愛 宕 山

2月5日 雨

記録破りのカラカラ天気も遂に待望の雨となる。それでも私は行く。雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ。釈迦堂前京都バス時間待ちの間に雨の嵯峨野を歩く。ほんとうに静かである。これが味えるのは人出をさけて皆の来ない日が良い。トンネル通行できるがそれでは味がない。試峠で一汗かいて登る。さすが山へ入るの物好きは私一人らしい。25丁目から上はみぞれ、水尾道から上は雪となる。上の社務所も今日は閉店休業である。気温0度であった。帰りも本道を下る。

釈迦堂前 9.55 一神社着 13.20 一 13.45 一 25丁目着 14.30 一清滝バス停前 15.05 着

愛 宕 山

2月9日 晴

今日は好い天気なのでかなりの参拝者があった。水尾道から上は雪があった。神社では気温マイナス2°である。然し積雪量は例年より少く写真を撮りに来た青年がガッカリしていた。下山は水尾へ下り清和天皇水尾陵へお参りして保津峡駅から国鉄で帰る。

清滝 9.55 一神社 12.13 一水尾陵 14.00 一保津峡駅着 15.30

愛 宕 山

2月14日 雨

快晴なればボンボン山（今日は善峰寺までバスが入る日である）へ行く予定でしたが、相にくの雨の為、例の愛宕山へ行きました。土曜日の為か登山者は割合いと多かったです。皆山屋の連中で

した。本道往復しました。

所要時間 4時間 気温 1度

大 文 字 山

2月19日

久し振りの快晴の山行きである。銀閣寺道から登る。千人塚から本道を外して直登コースをとり中心点へ出た。私が出発しているのを見て「早朝が最も撮影に適した条件が揃います」とアドバイスしてくれる人もある。私も一度夜明けの日の出を撮りたいと考えている。池の谷地藏さんへ語り、鹿ヶ谷コースで錦林車庫前へ出た。 所要時間 約3時間

例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1066	比良合宿 武奈ヶ岳	1月31日 ～ 2月 1日	晴	横大路 岡本 義弘 山田 精一	徳田 真三 西井 巖 木村 彰光 宮後 正樹	天候に恵まれ、冬山を満喫する。若い人には特に好評であった。 詳細別稿報告
1067	ファミリー スキー花背	2月 8日	晴	錦林 大槻 雅弘	三橋 勉 家族2人 武田喜久郎 家族3人 田中 明家族1人、大槻家族6人	総勢16名でファミリースキーにふさわしく、4才の子供から小学生を含め9人の子供達と一日ふらふらになる迄グレンデにて遊んだ。天候も良く、シャツ一枚で汗をながしながらスキーに、スノーボードにと親がついていけない程体を動かす。靴の中に雪が入るうが、手袋が濡れようが子供はおかまいなし。帰るのが残念そうに、車に乗ったとたん「次、いつ、いつてくれる」のにはまいった。
1068	リトル比良	2月 9日	晴	横大路 田中 忠久	上島 和彦 山下 栄次 進藤 義治	わかんを十分に使いこなして、雪の尾根を縦走する。 詳細別稿報告
1069	大見尾根	2月15日	晴	名誉部員 山村 敏郎		参加申込み者がなく、担当者の都合も悪かったので中止した。

雜 報

▲ 2月集会報告

2月19日 下鴨寮

出席者 名誉部員 牧 定夫氏、 畑 照人氏、 伊藤潤治氏
本 局 宮後、 三橋
錦 林 大槻、 武田
五 条 坂井
横 大 路 田中

9名

例会報告 比良合宿(宮後) ファミリースキー(大槻) リトル比良(田中)

台高山脈以来わかんをはいての雪山は行ってみたいが、久しぶりに中国三室山へ、行ってきたという伊藤氏の御元気が山行の話等、楽しくきかせていただいた。

名誉部員 奥村厚一 遺作展

会 期 3月3日 ~ 23日

会 場 京都市美術館

主 催 京都市

入場料 大人 300円 高・大生 200円 小・中生 100円

▲ 部費受領

市役所 中山忠之

本 局 吉村忠行、上田 隆、池田弘之、加地卓男、世古口 陽、須原 均、上原昭二
九条第二 沢井佳三

高 野 官田 貢、山畑敏和

▲ 【入 部】 八条 川村博善 宇治市広野町茶屋裏8

昭和42年10月15日生

テニス用品
スキー用品
山用用品

交通局的皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

みんな知っている
古くからの厚生会特約店
野球用具 硬式・軟式専門店

ゴルフ初心者向クラブ沢山
あります 特に偶数クラブOK
以上の商品なんでもOK
購買証御利用下さい
月賦可 電話にて御注文下さい

KK西沢スポーツ

中・釜座御池下
(221) 5739

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL801-5331(代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を
確信ある価格で……



好日山荘

河原町六角下ル東入ル
TEL 241-1731

和年51年3月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局

京交山岳部

ダイバー仲間へのプロショップ

- 取扱品 ● スキューバアネロ 京都府秘登元
 ● ホイト(※) タコ(※) クレジット(伊)
 マリン(仏) ブッシャーサブ(仏) NDS(日)
 キヌリ(日) スキューバプロ(※) 代理店
- 講習会 ● 現役プロダイバーによる安全確実な
 アフアラング指導

ダイビングプロショップ

〒603

エリート

京都市北区堀川通北大路上ル東側
 TEL 075 (492) 8450

PRO SHOP
山とスキー チロル
 輸入品とオリジナルの店

AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下
 定休日 月曜日 (221)6186

まかせて下さい...ネ
山とスキー
 のことなら...

☆在庫豊富にとり揃えています
 ☆山の道具は"セビ"御相談下さい
 ☆友の会会員募集中(毎月1000円)

山とスキーの専門店
スリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入
 烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

HIKE & CAMP

この用具の事ならココが一番です!
 御来店ありがとうございます

山とスキー
 そして海の レジャースポーツショップ

ココ

中・三条通河原町西 TEL 231-1202

山を美しく //

山のごみは
 各自持って帰りましょう。